



[令和 8 年度入学試験問題：後期]

小 論 文

(120 分)

人 間 文 化 学 部

地域文化学科

人間関係学科

国際コミュニケーション学科

注 意 事 項

1. 解答開始の合図があるまで、この問題冊子および解答冊子の中を見てはいけません。また、解答開始の合図があるまで、筆記用具を使用してはいけません。
2. 問題は 3 学科共通です。
3. 問題は 2 題で、7 ページあります。
4. 解答開始後、解答冊子の表紙所定欄に受験番号、氏名をはっきり記入しなさい。表紙にはこれら以外のことを書いてはいけません。
5. 解答は、すべて解答冊子の指定された箇所に記入しなさい。解答に関係のないことを書いた答案は無効にすることがあります。
6. 解答冊子は、どのページも切り離してはいけません。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。解答冊子を持ち帰ってははいけません。

問題 1 次の文章は、櫻井一成「落語と/の教育 本寸法の美的教育」の一部である。これを読んで、後の問い(問1, 2)に答えよ。

(櫻井一成「落語と/の教育 本寸法の美的教育」森本淳生、鈴木亘編著『落語と学問する』、水声社、2025年。出題にあたり縦書きを横書きに改め、一部漢数字を算用数字に改めたり、ルビを付したりするなどの必要な改変を行っている)

注

- (1) 落語協会が実施した真打昇進試験の結果と審査基準に異を唱えた立川談志が、1983年に大半の弟子と共に落語協会を脱会し、創設した団体。
- (2) 1936–2011。落語家。型破りな人物として知られる。
- (3) 毎日の生活をなんとか過ごす。
- (4) 落語、講談、義太夫、浪曲の寄席の一座で、最後に出演する最もすぐれた者。
- (5) 講談界や東京の落語界で、前座と真打との間の階級。
- (6) 音曲、曲芸、奇術など、落語や講談以外のもの。

問 1 本文では様々な芸術活動に「集合的行為」、「協働」があると述べられているが、ここでは画家の活動に当てはめて、その「集合的行為」、「協働」について具体的に説明せよ。字数制限は設けないが解答用紙の枠内におさめること。

問 2 落語の世界では、「大ネタは前座が演じてはならない」「トリの演目と重複しない噺を選ぶ」といった、明文化されないまでも共有された「規則(convention)」が存在する。これらの規則は、芸の質を守るために重要な役割を果たしている。ここでは日本の伝統芸能を例にして論じられているが、これをあなたの身近な例におきかえて集合的行為と規則の関係性を説明せよ。また、「規則」の存在意義と悪影響について自分の考えを述べよ。字数制限は設けないが解答用紙の枠内におさめること。

問題 2 次の文章は、堀尾輝久『教育入門』の一部である。これを読んで、後の問い
(問 1， 2)に答えよ。

(堀尾輝久『教育入門』、岩波書店、1989年。出題にあたり縦書きを横書きに改め、一部漢数字を算用数字に改めたり、ルビを付したりするなどの必要な改変を行っている)

注

- (1) 新生児にみられる反射で、口に入ってきたものに吸いついてすすむ行動。
- (2) 1762年に刊行された小説形式の教育論。
- (3) 経験や学習によって変化しやすい性質。
- (4) アリストテレスの使用した概念で現実態と対をなす。たとえば木の種子は木の可能的存在にすぎないが、やがて木の種子は現実化して木となる。つまり、まだ実現していないがそうなる可能性をもつ状態。
- (5) 生まれて間もない赤ん坊。
- (6) 一時的で急激な感情の動き。

問 1 下線部①「人間がはじめ子どもでなかったなら、人類はとうの昔に滅びてしまったにちがいない」という『エミール』の一節を、筆者はどのように理解しているか。解答用紙の枠内で詳しく説明せよ。

問 2 下線部②「学習は単に外からの刺激を受容する受動的行為ではありません」とあるように、筆者は学習を「受動的行為」ではなく「主体の選択的活動」と捉えている。あなたの経験に基づいて、「受動的行為」と「主体の選択的活動」について具体的に説明せよ。そのうえで、「受動的行為ではありません」とする筆者の考えに対するあなたの意見を述べよ。字数制限は設けないが、解答用紙の枠内におさめること。